２０１８．７．２０

学校法人平和学園
平和学園小学校
2018 年度　学校だより　第５号
〒 253－0031
神奈川県茅ケ崎市富士見町 5-2
Phone　0467-87-1662／0131
F ax　0467-87-0411
サイト　http://www.aletheia.ac.jp/s/

平和の花

一人ひとりの内側に

年間聖句
「それゆえ、信仰と、希望と、愛、この三つは、いつまでも残る。その中で最も大いなるものは、愛である。」　コリント信徒への手紙一　１３章１３節

「おはようございます」と声をかけた時の、きらきらした笑顔で返事をする児童の声に励まされて、一日を始められることに嬉しさを感じます。一学期の生活の中には、やる気に満ちた様子や、穏やかに見つめる目、自主的に動こうとしている姿などがみえました。また、気持ちの整理がつけられない、自分と向き合う苦しさの中にいる児童の様子、友だちとの意見の違いに悩む姿など、自分らしく生きているからこその問題がたくさん生じた一学期でもありました。元気に明るく楽しく生活をしてほしいと願います。しかし、子どもを取り巻く現代社会の環境や問題は、子どもの夢や希望を失うような残酷な事も多いのではないかと思います。これから長い夏休みに入ります。好奇心が旺盛な児童期の子どもたちの生活リズムや周りの様子などに気を付けながら過ごしましょう。

「見よ、わたしはあなたを
　　わたしの手のひらに刻みつける。」
イザヤ書　４９章１６節

私たちの脳裏に焼き付いている、ここ数年の自然災害。東日本大震災をはじめ、日本列島の各地で起こっている地震、豪雨、強風（竜巻）などで大切なたくさんの命が奪われている現実です。私たちは、日々の生活の中で神さまが創られた地球の自然の美しさ、素晴らしさを伝えています。一方で、時には自然の厳しさ、恐ろしさがあることを理解していくことも大切であるとつくづく感じます。

毎月の「隣人を覚える礼拝」では、私の、私たちの「隣人」とは誰だろうと考える時が与えられています。お話を聞きながら、神さまに心を向け、聖書のみ言葉を心に留めて、大切な私の隣人に祈りを捧げます。小さなときから他者への思いを心の内側に積み重ねていくことが、児童期の成長にはとても大切なことなのです。被災した地域の方々の中には、平和学園小学校の児童と同じ年齢の子どもたちもたくさんいます。命を奪われた子どもたちもたくさんいます。そのことを覚えて、各家庭でも子どもとともに、お祈りをしていただけたら嬉しいです。

そして、夏休みは「平和を考える」大切な時を迎えます。平和をつくり出す一人として、一日一日を大事にしていきましょう。

今年度の始まりから、児童の登校時間に一緒に登校する機会がありました。小学生と一緒に話しながら登校をすると、小学生が考えている楽しいこと、困っていること、挑戦してみたいことなどがたくさんあり、一生懸命に生きているのだということがわかります。大人は、小さな子どもの声にきちんと耳を傾けて、真剣に話を聞くことが出来ているのだろうかと改めて思います。子どもは誰の話でも一生懸命聞きます。さて大人はというと、聞きながら違うことを考えていたり、子どもの意見に頭の中で反論していたりすることはありませんか。もし、そのような経験があるならば、少し気を付けてみましょう。きっと新しい関係が生まれるでしょう。

２０１８年度の一学期も、たくさんのご協力に感謝いたします。楽しい夏休みをお過ごしください。